

〔新撰類聚往來〕下國名略○中 周防防州

〔古事記傳七〕周芳國造書紀卷々に師は須波ハスナと訓れき、信に万葉などにも、芳は波の假字に用ひ、

又須波字と云むよりは、古言の體サマなり、されど此國名を正しく然云る例を未見在萬葉四に周防、

ハクナ波字ハクナ那流ハクナか定めがたし、和名抄にも周防須波とある故に、今も然訓つ名義いまだ考得ず、

〔諸國名義考下〕周防

和名抄に周防須波字、國府名義略えれがたし、○中 彦麻呂強て考るに、佐婆の轉りなるべし、日本書

紀を始として、佐婆郷のみ多く物に見えて、他郷の名はいとく、まれなり、和名抄にも國府在佐

波郡とあり、佐と須とは常にまたく通ふ音なり、防も芳も波の假字なることうつなし、されど

證なければおしていふべくもあらず、藤原明衡新猿樂記に、集諸國土産云々周防鯖とあり、また

或書に、草薺鱗甲之類多、土産十倍他國、以鯖施名也と云るは、よしありとおもはる、

〔日本書紀八〕八年正月壬午、幸筑紫、時岡縣主祖熊鰐、聞天皇車駕略、○中 參迎于周芳沙磨磨原作

紀之浦、而獻魚鹽地、

位置

〔地勢提要乾〕各國經緯度 附里程

周防山口前町極高三十四度一十分半、經度西四度一十五分半、從東都同上、東海道西國街二百六

十三里二十八町三十八間半、

同岩國錦見極高三十四度一十分、經度西三度三十二分、從東都同上、東海道西國街二百四十一里

一十四町一十一間、

〔日本經緯度實測〕北極出地

周防 岩國 三四度一〇分〇〇秒 德山 三四度〇三分〇〇秒略○中

東西里差